

NEWS LETTER GLOBAL MAPPING 22

第8回地球地図国際運営委員会会合



第8回地球地図国際運営委員会会合(ISCGM8)は2001年5月25日に、第5回全地球空間データ基盤会議(GSDI5)に引き続き、コロンビア国カルタヘナ・ディ・インディアスのホテル・ラスアメリカスにおいて開催された。本会合はアグスティン・コダシ・コロンビア地理院が主催した。

今回はラテンアメリカで開催された最初のISCGM会合であった。それゆえ、ことに、地球地図がさらにラテンアメリカ諸国の理解を得るための好機であるので、本会合はGSDI5参加者全員に参加を呼びかけた。その結果、31ヶ国から80名の参加を得て、現在までのISCGM会合で最大の参加者数となった。

ISCGMの設立以来の委員長で、地球地図プロジェクトの偉大なリーダーであったジョン・E・エステス教授が2001年3月9日に突然亡くなり、今回は亡くなった後で初めて開催された会合のため、ISCGM副委員長のオーストラリア測量土地情報局のピーター・ホランド氏が特別に議長を務めた。通常は委員長が指名を行うが、秋山實事務局長が、ピーター・ホランド氏の副委員長職と秋山氏自身の事務局長職の継続を提案し承認された。委員長の選挙は行われず、新委員長が決定するまでホランド氏が委員長代理を務めることに

なった。前副事務局長の村上広史氏が最近国連地球図課に移動になったため、新たに顧問に迎えられ、カリフォルニア大学サンタバーバラ校のカレン・クライン女史が新事務局次長に指名された。新たな委員として紹介されたのは、SCAR-GGIの代表として、ドリュウ・クラーク氏の後任のジョン・マニング氏、イランのアッバス・ラジャビファード氏の後任のサイド・ノオリ・ブシェーリ氏、日本の城処求行氏の後任の矢野善章氏、韓国のジェ・ジョン・フー氏の後任のテージュン・ミン氏、マレーシアのダトー・アブドゥル・マジッ氏の後任のハミド・アリ氏、英国のジェフリー・ロビンソン博士の後任のニック・ランド博士、米国のリチャード・ウィットマー博士の後任のジョン・ケルメリス博士と、本会合を主催したコロンビアのサンチャゴ・ボレロ氏である。

委員会会合の間の時期に委員長の選挙が行えるよう、ISCGM規約第8条が修正された。

地球地図プロジェクトへの数多くの国々の参加と、地球地図フォーラム2000における地球地図第1版の公開により、地球地図プロジェクトの第1フェーズが成功裡に完成したことを踏まえ、今回の委員会の議論は、本プロジェクトの第

2フェーズの戦略計画と地球地図データの商業利用のための方針に焦点があてられた。フェーズ2計画については、米国のケルメリス博士が、ワーキンググループ1を代表して報告を行い、議論をリードした。ケルメリス博士は以下の提案を行った。1) フェーズ2計画に関し、既存の文書で取り上げられた問題について回答を用意する。2) 既存の全球規模や地域規模のデータのインベントリー作成を行う。3) 調査の必要性や調査パートナーの見込みについて確認する。4) 2001年8月に北京でアドホック・ワーキンググループ・ミーティングを行う。データ・ポリシーについては、ワーキンググループ3を代表してユーロジオグラフィックスのクロード・ルゼ氏が報告を行い、議論をリードした。ルゼ氏は以下の提案を行った。1) インターネット上での非営利目的の利用のための無料配布と著作権の認知を、デフォルトで推奨する選択とすること。2) 地球地図データの利用を記録・報告し、不適切な利用を報告する何らかの仕組みを確立する。3) インターネット以外の可能なデータ提供メディアを検討する。4) 地球地図の今後の市場性について検討し、データ・

ポリシーの問題についての国家地図作成機関の立場について全球的に調査を行い、現在のデータ・ポリシーの有効性について評価する。これらの課題について、ワーキンググループ1と3のそれぞれにおいて、引き続き議論を行うこととなった。

本会合に先立ち、GSDI5において、ESRI社のジャック・デンジャモンド氏が、ジョン・エステス教授を記念する全地球空間データ基盤/地球地図助成プログラムの提供について発表した。作成されたデータをインターネット上で公開することを条件に、ソフトウェア、研修、サポートが提供される。この申し出が地球地図データの作成を促進すると考えられることから、ISCGMは、このプログラムに対して共同で対応するための、ISCGMとGSDIで構成される小規模なワーキンググループを設立することを決議した。

本会合での審議は17項目の決議にまとめられた。

第9回ISCGM会合は2002年9月にハンガリーのブダペストで、第6回GSDI会議と併せてハンガリー国農業・地域開発省土地地図局の主催により開催される。

GSDI5 はコロンビア、カルタヘナで開催、大成功を納めた

サンチャゴ・ボレロ
GSDI 運営委員会委員長

GSDI5には、49ヶ国から250名以上が参加した。本会議は2001年5月22日～24日まで、コロンビア、カルタヘナで開催された。会議は、「持続可能な開発：意思決定の改善のためのGSDI」のテーマのもとで開催され、地理データの作成者や空間データ基盤(SDI)技術の開発担当者が官民の意思決定者と話し合う、活気に満ちた、見聞を広める機会であった。

GSDI5の要点は以下のとおりである。

- GSDIは、2002年に南アフリカのヨハネスブルグで開催されるUN Rio+10サミットで提案する、持続可能な開発のための地球規模のデータセットの必要性について声明書を作成する。
- GSDIは、目標と目的の達成を促進するため、短期間のうちに、公的/私的非営利団体に移行することを決議した。
- 産業界の参加が増大し、従来の会議の後援者からGSDI活動への直接的参加に移行した。
- 地球地図国際運営委員会(ISCGM)委員長の故ジョン・エステス教授を記念し、ESRI社長のジャック・デンジャモンド氏は、GSDIと地球地図のための500万ドルの助成を発表した。
- GSDI5会議と同時に、第3回米州地域空間データ基盤常置委員会-PC IDEAと第8回地球地図国際運営委員会会合が開かれた。
- PC IDEAとPC IDEAのアジア太平洋地域での姉妹委員会であるPCGIAPは、地域レベルでの空間データ基盤整備のための共通の基盤の促進を述べる覚書に署名した。
- 次回のGSDI会議は2002年9月にハンガリーのブダペストで開催される。

GSDIの役職者

2001年～2002年の期間は、コロンビア地理院長のサンチャゴ・ボレロが、南アフリカのデレク・クラーク氏の後任としてGSDI運営委員会委員長に選出された。同時にヨーロッパ地理情報連合・EUROGI会長のイアン・マサー氏が副委員長に任命された。米国連邦地理データ委員会が、ジョン・モエラー氏を事務局長として、引き続き事務局業務を担当する。また、バス・コク氏とハーラン・オンスルド氏が法制度・経済ワーキンググループの共同座長を引き続き務め、ダグ・ネバート氏がテクニカル・ワーキンググループの座長に留任する。

GSDI6は、2002年9月にハンガリーのブダペストにおいて開催される。この会議は、ガボー・レメテイ氏の責任のもとでEUROGIとハンガリー

国立地理情報協会・Hung GAIが主催する。会議は、「地球規模から地域へ」と題して、第9回地球地図国際運営委員会・ISCGMと同時に開催され、また、EUROGI本会議も同時開催される予定である。

会議の議事と決議

会議において、「GSDIと他の関連の取り組み」、「GSDIの組織」、「GSDI実施ガイドと共通の実施の実行」などに関して12項目の決議が採択された。決議とGSDI5に提出された文書は2001年7月1日から以下のサイトで入手可能になる。

<http://codazzi4.igac.gov.co/gsd5> と

<http://www.gsd.org>

国連が地球地図の重要性を認識する

ジョン・ケルメリス 米国
田中 庸夫 日本

国連持続可能な開発委員会第9回会合(CSD-9)がニューヨークの国連本部で開催された。本年4月に開催された本会議は、持続可能な開発のためのワールド・サミット(WSSD)に備え、世界中の環境の改善と経済の向上に関し、重要な課題を確認するために各国が一堂に会したものである。

WSSDは、1992年にブラジルのリオデジャネイロで開催された第1回持続可能な開発のための世界サミットで多くの国が合意したアジェンダ21の目標に応え、世界で成し遂げられた業績について詳細に報告するために、2002年9月に南アフリカのヨハネスブルグで開催される。

CSD9で審議された議題には、持続可能な開発の目標に到達するためのテクノロジーの重要性が含まれる。地球地図プロジェクトは具体的に討議され、米国や日本を始めとする各国は、会議報告書に地球地図を盛り込むことを奨励した。米国代表が会議の報告書に地球地図を盛り込むよう、地球地図プロジェクトと概念を紹介した。

地球地図プロジェクトは、多くの国が特定のプロジェクトを支援することは適切ではないと考えたので具体的に会議の成果としては記述されなかった。しかし、各国は地球地図の概念に賛同し、会議の報告書に以下の記述が盛り込まれた。

委員会は、

(f) 地球地図及び地理情報システム、ビ

デオ伝達技術、衛星データ普及のためのインターネット技術等の革新的な技術を整備し、開発途上国がひろく利用するよう呼びかける。

この記述は、国連がその目標を達するために他のプロジェクトを差し置いて一つのプロジェクトを明示的に支持することができない中で、明らかに地球地図の活動を支持している。

CSD9の会期中に、特定の課題や概念やプロジェクトについて、さらに理解を促進させるために、多くのサイド・イベントが行われた。「持続可能な開発のための地球地図」と題するサイド・イベントがISCGMと日本政府の共催で米国が参加し行われた。国連日本代表部赤阪清隆大使の開会の挨拶の後、3つの発表が行われた。「地球地図 - 概念と最近の進展、地球地図の利用、地球観測 - 熱帯降雨観測衛星(TRMM)をとおして得た経験」が、福島芳和氏、ジョン・ケルメリス、村越直政氏によりそれぞれ発表された。

「持続可能な開発のための地球地図」には、15ヶ国の代表と多くの非政府機関の代表が参加し盛況であった。聴衆からの多数の質問は本プロジェクトに対して、大きな関心が寄せられていることを反映している。

地球地図国際運営委員会が環境情報科学センター賞特別賞受賞

平成13年度第1回環境情報科学センター賞の授賞式が去る5月17日に行われ、地球地図国際運営委員会が「地球地図の整備」で特別賞を受賞した。地球地図国際運営委員会を代表して、国土地理院から矢野善章院長が出席し、表彰状、記念品を受け取るとともに、受賞者講演として、地球地図の経緯と現状に関する講演を行った。

社団法人環境情報科学センターは、自然環境、社会環境の各分野における科学的研究を行うとともに、環境科学の普及を図り、豊かな人間環境の保全と創造に寄与することを目的として設立され

た日本の公益法人である。

本賞は、環境情報科学に関する学問及び技術の進歩発展について貢献したと認められる学術論文、計画・設計、技術開発等の優れた業績に対して、その功績をたたえることを目的としている。

今回の受賞は地球地図国際運営委員会の活動が、様々な環境問題の解明に向けて、今後地球規模での多大な貢献が期待できるものとして高く評価されたものである。

地球地図の参加状況

地球地図の参加状況	2001年6月25日現在
地球地図の参加国・地域数	84ヶ国・地域
地球地図への参加を検討している国・地域数	34ヶ国・地域
地球地図への最近の参加国	
ロシア連邦測地地図局	5月25日参加

地球地図データの公開

公開されたデータ

コロンビア 5月18日、オーストラリア 6月28日予定

地球地図及び関連の会合予定

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

2001年

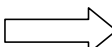
- ・ 6月24日～28日、カナダ、フレデリクトン
第2回デジタル・アース国際シンポジウム
<http://www.digitalearth.ca>
- ・ 8月6日～10日、中国、北京
第20回国際地図学会議
- ・ 9月4日～7日、エチオピア、アディスアベバ
国連CODI会議
- ・ 10月25日～26日、オーストラリア、アデレード
第13回ISO/TC211本会議

2002年

- ・ 5月23日～24日、タイ、バンコック
第14回ISO/TC211本会議
- ・ 9月、ハンガリー、ブダペスト
第6回GSDI会議
- ・ 9月20日、ハンガリー、ブダペスト
第9回ISCGM会合

事務局からのご案内

地球地図国際運営委員会事務局のe-mailアドレスが一本化されました。

iscgmsec@graph.gsi-mc.go.jp  sec@iscgm.org

編集、発行：国土地理院

地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番

Tel: 0298-64-6910 Fax: 0298-64-6923

E-mail: sec@iscgm.org

<http://www.iscgm.org/>